

腹臥位療法の導入を目指して —バリエーション選択フローチャートの作成—

7-2病棟 杉山 聖乃 南 條 久 乃
金 谷 裕 子 海 野 愛
杉 山 千 亜 紀 寺 田 麻 理 子

I. はじめに

寝たきりにならないための療法の一つとして有働尚子医師によって提唱された「腹臥位療法」がある。当病棟でも2002年に意識障害治療学会にて「急性期脳疾患患者での有効性」を報告している。しかし、腹臥位のバリエーションの多さなどからどの患者にどのバリエーションを用いるかがわかりにくかったこと、明文化されたマニュアルがなかったことから残念ながら病棟での定着はしていない。今回は、腹臥位療法の対象であるか否かを判断し、どのバリエーションを用いるかを、同じ基準で判断するためのフローチャートを作成したので報告する。

II. 研究方法

1. 当病棟で実施する腹臥位療法のバリエーションの検討およびフローチャートの項目の設定
2. フローチャートの試作および紙上シミュレーション
3. フローチャートの改善

III. 経過

試作1,2と作成し、そのシミュレーションから試作1では、ベッド上腹臥位は安全面を考えると常時観察が必要であり現状では困難と判断しこのバリエーションを除外した。またGCSの点数、拘縮の程度だけではバリエーションの選択はできなかつた事から判断項目から削除した。試作2においては前傾姿勢を取れる事、歩行可能な条件に具体的な内容を追加しバリエーション選択フローチャートを作成した。(図1)

IV. まとめ

物事が定着するには、その必要性や有用性を各自が理解することが大切であると同時に実施方法も容易であることが望ましい。フローチャートを作成し

たことで、看護師の経験年数に関係なく容易に腹臥位療法の適応の有無、バリエーションの選択ができるようになった。実施するバリエーションを病棟看護師が行える範囲に設定した事で体位交換時やリハビリの車椅子乗車時に行うなど現在の患者の日課に加えることができた。このバリエーション選択フローチャートの完成が今後の腹臥位療法の定着への第一歩となったと考える。

V. おわりに

現在は、紙上のシミュレーションのみの段階である。今後は病棟での学習や実施に加え、評価方法の検討も行っていきたい。

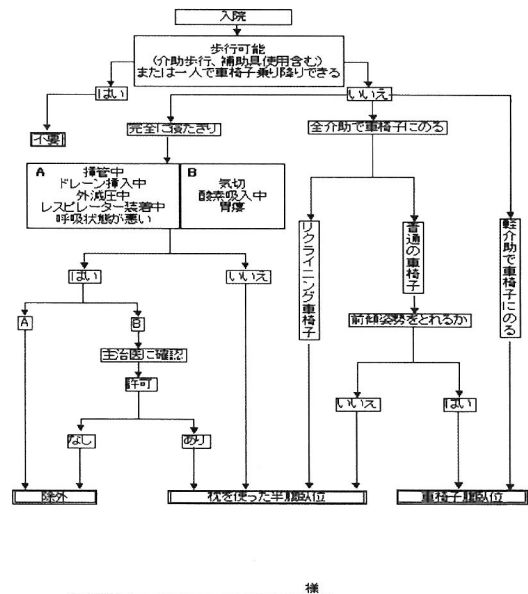


図1 バリエーション選択フローチャート